

P1447 新たな識別技術 (2020年1月)

ニューラルネットワークとセンサーの進歩が、物体と活動とを識別する多岐にわたるデバイスの進歩を可能にする。

- 視覚データを使わずに物体を識別できる機械学習ソフトウェアや、物体に関する情報を感じ取れる触覚センサー付き手袋が開発された。
- 着用者が何をしているかを高い精度で判断できるようになることで、ウェアラブルデバイスに恩恵をもたらす可能性がある。



This Pattern's Data Points

[SC-2019-12-04-104](#)

韓国KAISTの研究者は、物体を視覚データや特別なハードを用いないで特定する、機械学習ソフトウェアを開発した。

[SC-2019-12-04-050](#)

カーネギーメロン大学のヒューマンコンピュータインタラクション研究所の研究者は、スマートウォッチの装着者が何をしているかを特定するために、スマートウォッチのセンサーデータを使っている。

[SC-2019-12-04-004](#)

MITの研究者は、センサーが埋め込まれたグローブを開発し、そのグローブからは対象物の情報が得られる。

これまでの関連Alerts



SoC088 [センサーのシナジー効果](#) (February 2005)

SoC560 [マシンビジョンの台頭](#) (January 2012)

P0428 [視覚識別ソフトウェア](#) (December 2012)

SoC750 [写真：目に見える物を超えて](#) (September 2014)

SoC811 [ビジョナリー AI](#) (July 2015)

P1303 [ウェアラブルな機能](#) (January 2019)

Scanプログラムでは、会員企業にEarly Alertsをご提供するために、新たな変化の予兆をとらえたSoC、Patternレポートを毎月発行しています。これらのレポートはいくつかのデータポイントに基づいて作成されており、その変化がどのような変遷をたどって来たのか、過去のSoC、Patternにさかのぼって確認することができます。